



# Hyundai Mobility Japan FACT BOOK 2022

# CONTENTS

ビジョン	3
グローバルセールス	4
成長要因	5
ヒョンデの2025年戦略	6
販売台数と沿革	7
トピック	8
・水素	
・自動運転	
・安全性の評価	
カーボンニュートラルロードマップ	10

Hyundaiの呼称は、  
ヒュンダイから「ヒョンデ」へ。

2020年、「ヒョンデ」へと世界統一呼称に変更されました。



## Why We Exist Progress for Humanity

人類のための進歩。

人類の進歩には、人に対する深い思いやり=ヒューマニティがあるべきです。

ヒューマニティは私たちを一つにし、私たちの関係をさらに強くします。

そして、力を注ぐべきものや、革新に向けて目指すべきゴールを明示してくれます。

このような信念が私たちの関係をより強固にし、共感しあい、より価値のある生き方を提供してくれます。

We are here to do the right thing for humanity.

私たちは、人類のための進歩を続けていきます。

# Global Sales グローバルセールス

## 概要

ヒョンテは1967年の創業以来、お客様に最高の製品とサービスを提供してきました。  
今後も「2025戦略」と業界をリードするサステナブルな経営活動に基づき、  
「スマートモビリティソリューションプロバイダー」としての地位を確立していきます。

### 概要

総資産	売上収益	
<b>KRW 209.344兆</b>	<b>KRW 103.997兆</b>	
信用格付け		
Moody's	S&P	NICE Investors Service
<b>Baa1</b>	<b>BBB+</b>	<b>AA+</b>

\* 2020年末時点、K-IFRSの連結財務諸表に基づく

### 2020年のサステナビリティ管理パフォーマンス

評価	
ダウジョーンズサステナビリティインデックス(DJSI)	2年連続でDJSI Koreaにて選ばれる
カーボンディスクロージャープロジェクト(CDP)	炭素管理部門の優等生水資源管理部門の優秀賞
中国社会科学院のCSR評価(CASS-CSR)	中国の企業の社会的責任開発指數評価で5年連続で自動車会社のカテゴリーで1位にランクイン
iFデザイン賞	2020年ヒュンダイモーターサステナビリティレポート「コミュニケーション部門」で「2021iFデザイン賞」を受賞

### 2021年のグローバル販売台数

韓国	726,838
海外	3,164,143
合計	<b>3,890,981</b>

**3,890,981**



# Key Success Factor 成長の要因

品質、デザイン、現地化の強化を基盤としてモビリティ領域の競争力を高めています。

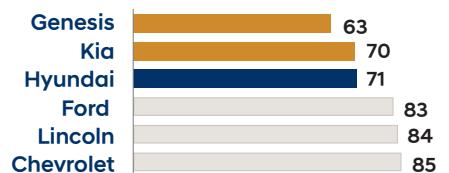
## 品質

Industry Leading Quality

J.D.パワーによる2019年の自動車初期品質調査ブランドランキングにおいて上位3ブランドをヒョンデが独占しました。



2019 Brand Ranking  
Problems per100 Vehicles (PP100)



J.D.パワー／自動車初期品質調査（2019年）

## デザイン

Design Leadership

国際的プロダクトデザイン賞「Red Dot Design Award(レッドドット・デザイン賞)」をはじめ、様々なデザイン賞を受賞しています。



## 現地化

Localization

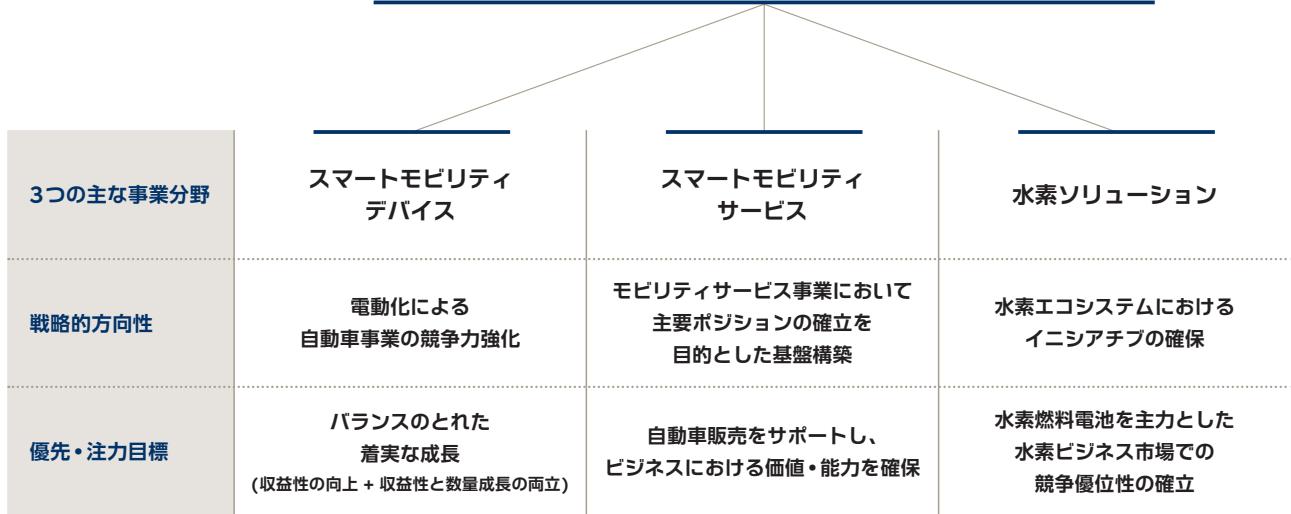
中国、米国、ブラジル、インドの他、ロシア、チェコ、トルコの計7か国の国外拠点にて工場を設立。綿密な戦略のもと各国ごとに投入する車両モデルを選定し、生産現地化と海外市場参入に成功。

## ヒョンデの2025年戦略

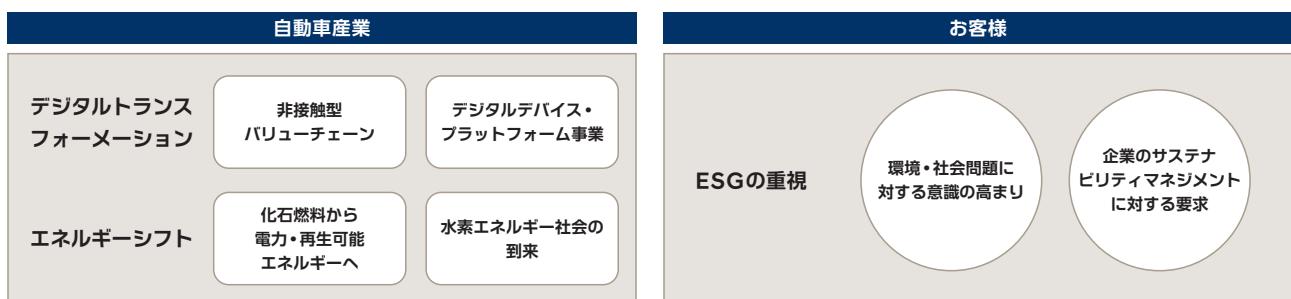
ヒョンデは2019年12月に発表した『Strategy 2025(2025年戦略)』で「スマートモビリティデバイスとスマートモビリティサービスを二つのコアビジネスの柱とし、2025年までにスマートモビリティソリューションプロバイダーに移行する」という電動化戦略における明確な目標を提示。グローバル市場において電動化におけるリーダーシップを発揮し、2025年までにバッテリーおよび燃料電池EVの世界トップ3メーカーの一つになることを宣言しました。そして、2020年12月には自動車業界におけるデジタルトランスフォーメーションとエネルギー・シフトの加速化、ならびに環境・社会問題に対する世間からの関心の高まりを受け、より最良のサービス・製品の提供を実現す

るために2025年戦略のアップデートを発表しました。アップデートされた2025年戦略ではスマートモビリティデバイス、スマートモビリティサービスに加え、新たに水素ソリューション領域での成長を視野に入れた、中長期的な戦略を展開しています。スマートモビリティデバイス分野では電動化による自動車事業での競争力強化、スマートモビリティサービス分野では主要ポジションを確立するための基盤構築、水素ソリューション分野では水素エコシステムにおいてイニシアチブを取るための戦略を策定し、スマートモビリティソリューションプロバイダーへの移行というビジョン実現、かつバランスのとれた成長と経営力の強化を目指しています。

### スマート・モビリティ・ソリューション・プロバイダー



## Background



# Sales & History

## 販売台数と沿革

### 自動車メーカーにおける2020年ブランド価値ランキング第5位

2020年、COVID-19の影響もあり厳しい市場環境下でも、ヒョンデは厳しい差別化された製品・サービスを開発することで顧客満足経営を実現し、その結果、様々な形で成果を上げてきました。

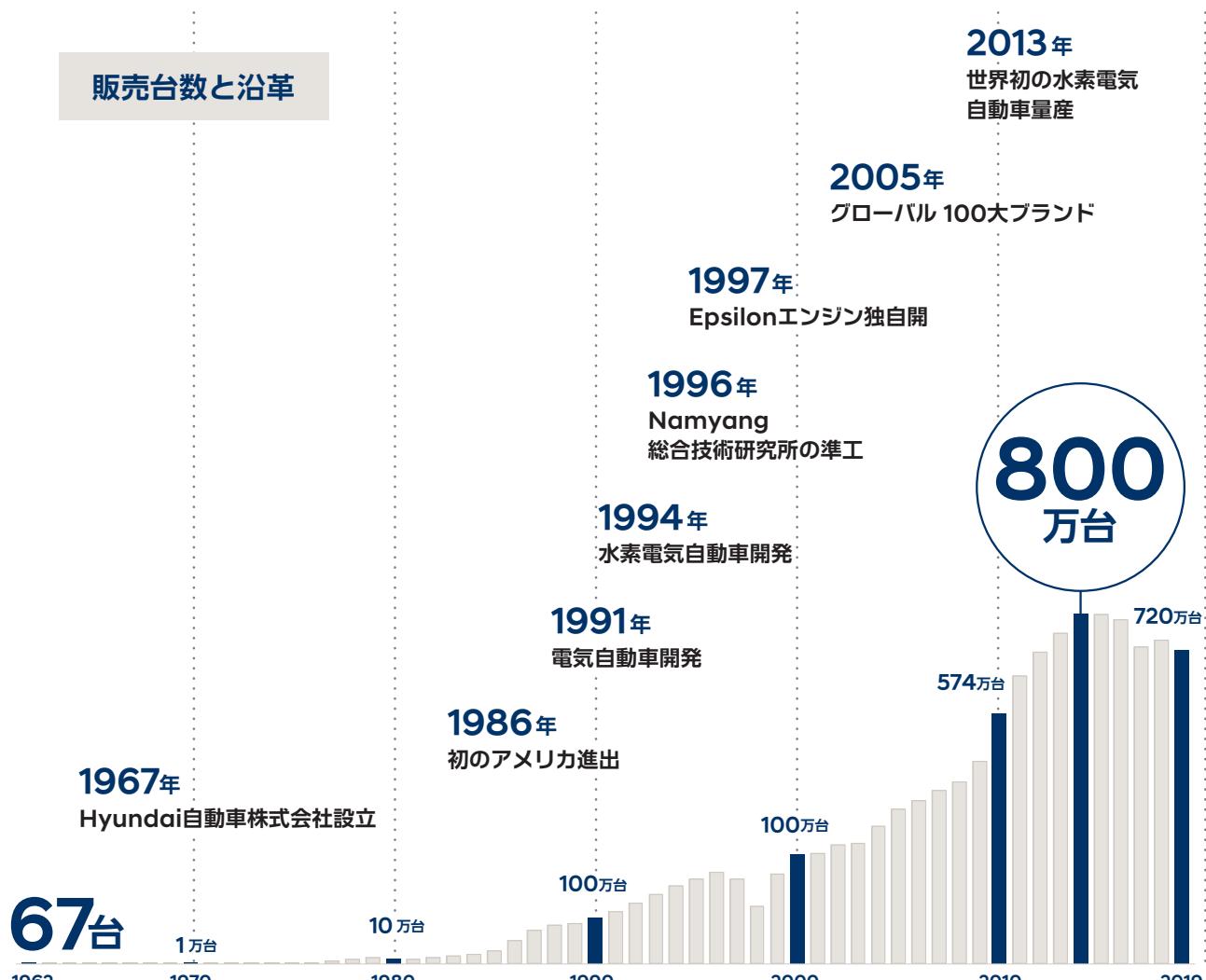
中でもGENESIS(ジェネシス)は、2020年米国初期品質調査(IQS)のプレミアムブランド部門で4年連続1位を獲得しました。

さらに、世界最大のブランディング企業インターブランドによるグローバルブランド価値評価ランキング「Best Global Brands 2020」においてヒョンデはトップ100社のうち36位、自動車メーカーにおけるランキングでは業界で唯一、前年比でブランド価値を高めたとの評価を受けた上で5位にランクインを果たしました。

出典：<https://interbrand.com/best-global-brands/>



### 販売台数と沿革

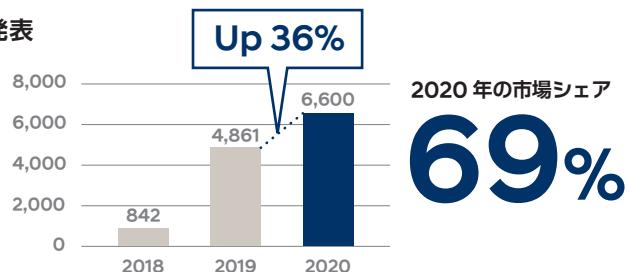


# Topic トピック

## Hydrogen 水素

### 水素燃料のEV市場をリード、専用ブランド"HTWO"も発表

ヒョンデのFCVである「NEXO(ネッソ)」の2020年の販売台数は、前年比36%増の6,600台となり、市場シェアは69.0%となりました。また2020年12月、水素燃料電池システムの新ブランド「HTWO(エイチツー)」を立ち上げ、完全に再生可能なエネルギー源によってサステナブルな価値を提供開始しました。このブランドは“Progress for Humanity”というビジョンの実現が目的であり、韓国、欧州、米国、中国を中心に、水素ビジネスの本格的な展開を予定しています。



### 水素燃料電池システムを初輸出

2020年9月、ヒョンデは水素燃料電池システム4台をスイスの水素貯蔵技術会社であるGRZ社と、欧州のエネルギー・ソリューション・

スタートアップ企業に輸出。ヒョンデの燃料電池システムの多様な適用可能性と事業の拡張性を世界に示す機会となりました。

### 水素燃料電池関連技術の革新を目指し、米国エネルギー省と協力体制を構築

2020年2月、ヒョンデは米エネルギー省(DOE)と水素燃料電池関連技術の発展に協力するための覚書を交わし、カリフォルニア州

を中心に普及した水素電気自動車の販売を、全米に拡大するための基盤を構築しました。

### 様々なグローバル水素キャンペーンの実施

ヒョンデは水素の認知度向上に向けた「Hydrogen to you (H2U)」キャンペーン、世界のオピニオンリーダーを対象とした「H2 Economy」キャンペーンなど、クリーンな水素エネルギーの価値、水素エネルギーが果たすべき重要な役割、環境への優しさや持続可能性、そして将来的に非常に有望なクリーンエネルギーとしての可能性などを世界の人々に伝えることを目的とした様々なキャンペーンを実施しています。また、2020年には、水素エネルギーをより広く

知らせるために韓国人気アイドルBTSと一緒に“Because of You”というスローガンのもと、グローバル水素キャンペーンを実施しました。



グローバル水素リーダーシップキャンペーン

## Autonomous Driving 自動運転

### ヒョンデとAptivの合弁会社「Motional」、公道での自動運転を実現

Motional(モーションナル)は、ヒョンデと米国の自動運転開発企業であるAptiv(アプティヴ)が設立した合弁会社です。最近では、ラスベガスの公道で完全無人自動運転車のドライバーレス・ドライビング・テストに成功しました。また、世界的な試験・認証機関であるテュフ

ズード社により、同社の自動運転システムの運用能力、技術などが検証されました。2021年2月に行われた走行実験では、一般的な交通問題や経路確認、緊急停止のために安全管理者が同乗していましたが、今回の実験では安全管理者を同乗させずに走行しました。

### 新型「IONIQ 5 ロボタクシー」を発表

Motionalは、SUVタイプのEVである「IONIQ 5(アイオニック5)」をベースにした新型「IONIQ 5 ロボタクシー」を2021年8月31日に発表しました。IONIQ 5 ロボタクシーはIONIQ 5(アイオニック5)をベースに自動運転システムを搭載することで米国自動車技術者協会(SAE)の「自動運転レベル4」を実現した、Motionalとして初めての商用車(タクシー)です。ボディには、カメラ、レーダー、ライダーをそれぞれ組み合わせた30を超えるセンサー類が装着され、周囲の状況を360度モニタリングすることができます。人間が運転するクルマとの違いをより明確にするために、センサー類を目立たせたデザインが特徴的です。IONIQ 5 ロボタクシーでは安全性を担保するために、

ナビゲーション、ステアリング、ブレーキなどのあらゆる機能に安全のための冗長性を持たせ、さらに、道路工事や洪水など予期せぬ道路状況に遭遇した場合、Motionalのオペレーターがリモートで車両へ接続し、新しい道へ誘導する運用も可能です。Motionalは、米国の配車サービス「Lyft」とのパートナーシップを通じて、2023年にIONIQ 5 ロボタクシーを用いた一般ユーザー向けの自動運転モビリティサービスを米国の複数都市で開始する予定です。



## Safety Evaluations 安全性の評価

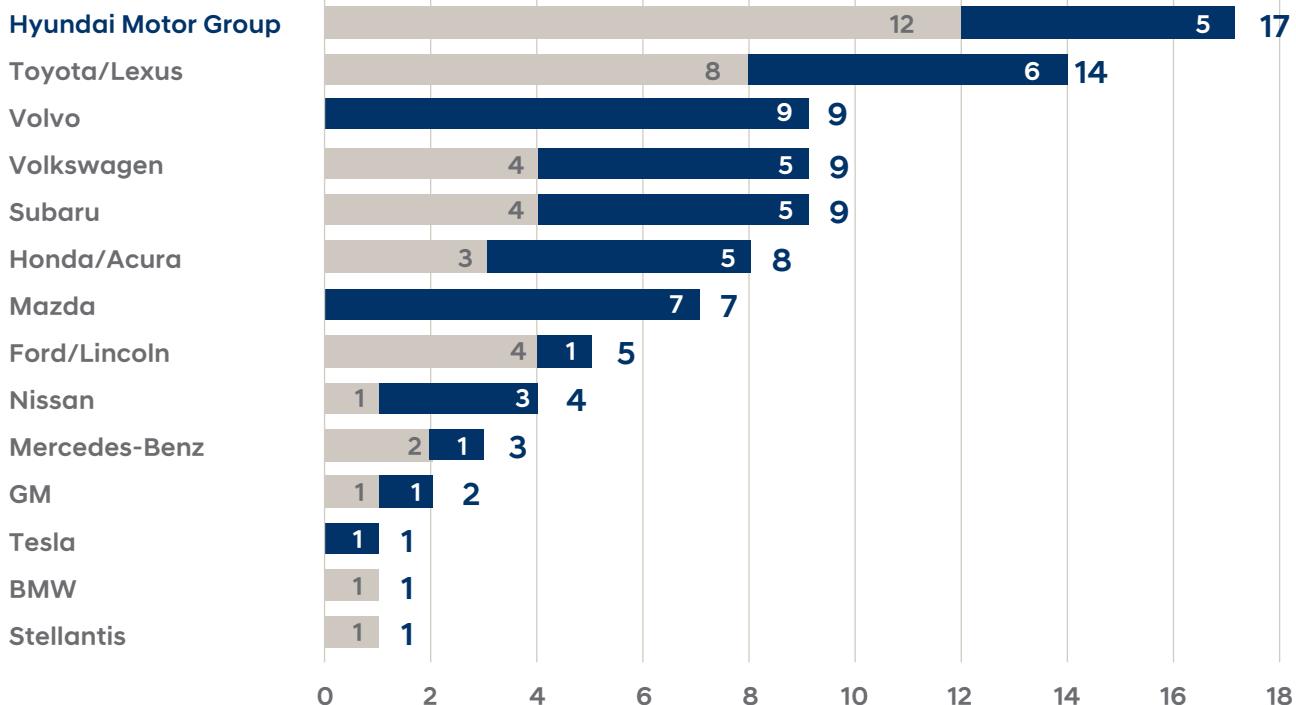
### 2021年2月にIIHSが発表した「トップセーフティピック(TSP)」に5車種が選出

ヒョンデは、外部の独立機関が行う衝突安全評価よりも厳しい条件で自社テストを実施し、衝突安全性を高めています。その結果、ヒョンデグループの17車種のうち5車種が、世界で最も厳しい自動車衝突安全評価機関の一つとして知られているIIHS(米国道路安全保険協会)による2021年の衝突安全性評価で最高総合評価にあたる「トップセーフティピックプラス(TSP+)」に選ばれました。世界の自動車安全評価は年々厳しさを増しており、自動車メーカーは常により良い安

全技術開発の要求に応えることが求められています。ヒョンデは、IIHSが最も安全な車に与える評価である「トップセーフティピックプラス(TSP+)」を4車種、優秀賞に相当する「トップセーフティピック(TSP)」を5車種が受賞しました。ヒョンデは、お客様の生命と安全を守り、世界で最も安全な自動車ブランドとしての評価を高めています。

### 2021年IIHSアワード受賞メーカー

■ 2021TSP ■ 2021TSP+



### 品質管理と保証を目的とした、自主的リコールの実施

ヒョンデはお客様の安全のため、すべての車両のリコールを先駆けて自主的に行ってています。また、国内外のお客様からの苦情にも細心の注意を払い、常に製品の品質と安全性の向上に努めており、その中

には、品質保証を目的とした、リコール関連の自主規制の強化も含まれます。最終的な目標は、車の開発から販売、そして販売後まで、お客様にご満足いただける最高のサービスを提供することです。

# Carbon Neutral Roadmap

In Progress with Positive Energy.

ポジティブな  
エネルギーで  
前進を。



ヒョンデは世界が必要としている「変化」を体現し、進歩のために必要なステップを歩んでいきます。

これは義務ではなく、より良い世界への「招待」です。

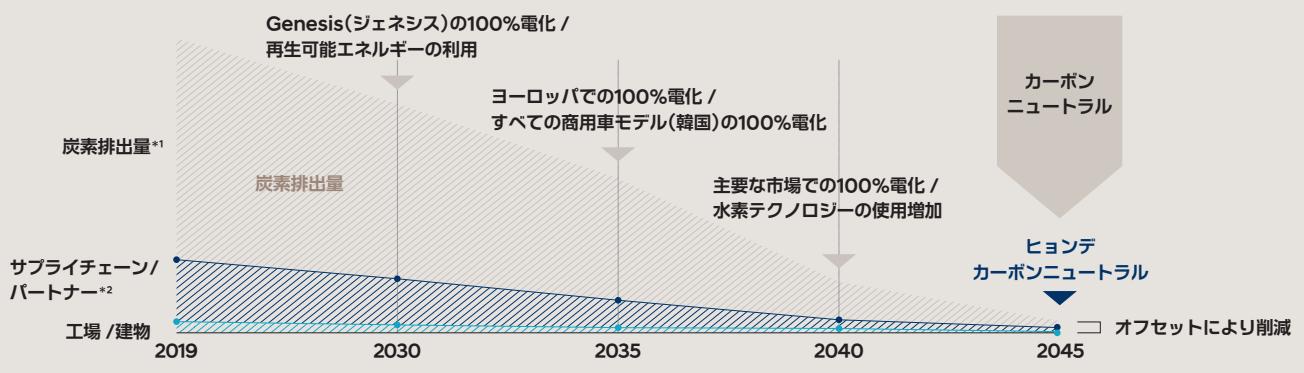
よりサステナブルな未来のために、ポジティブな「変化」を起こしていきます。



## ヒョンデのカーボンニュートラルへのビジョンと目標

私たちは、気候変動問題を解決するためには自動車産業の積極的な改革が不可欠である信じています。その目標は、バリューチェーン（価値連鎖）を完全にカーボンニュートラルにすることであり、先進的な技術をベースに電動化を実現し、水素社会を構築し、スマートシティの実現に貢献していくことです。2045年までには部品調達、生産、車両

運行などすべての段階でカーボンニュートラルにすることを目標にしており、海外の工場で100%再生可能エネルギーに移行するための「RE100」ロードマップを策定しました。さらに、主要なパートナーにガイドラインを提供し、社会的責任のある行動を要求することで、製造のすべての段階で温室効果ガスの排出量を削減していきます。



## 電動化戦略

2035年までに欧州で100%電動化(バッテリー式電気自動車(EV)および燃料電池自動車(FCV))を達成し、2040年までに主要市場で製品車両の100%電動化を達成する計画です。NEXO(ネッソ)、IONIQ(アイオニック)などの普及促進はもちろんのこと、2019年には欧州電気自動車の高速充電インフラ構築専門会社IONITY(アイオニティ)と戦略的投資契約を締結し、7,500万ユーロの戦略的投資を実施。欧州のEV顧客のために「クリーン

モビリティ」への移行を加速させるパートナーシップを構築しています。またEVと電力網とを連動させ、バッテリーの電力を電力網に送るV2G(Vehicle to Grid)技術により、国家の電力網の効率を高め、国家/社会のカーボンニュートラルにも貢献します。EVの高圧バッテリーに蓄えられた電力を電力網に戻すことができる次世代の充電技術を実用化、さらに、廃電池の回収・リサイクルネットワークのグローバル展開も目指しています。

## 水素ビジネスの相乗効果

ヒョンデは2021年9月7日、Hydrogen Waveにて「2040年までに水素エネルギーへのシフトを完了」を宣言。またこの2040年を「水素エネルギーの大衆化元年」にしたいと考えています。水素におけるビジネスの3つの柱は、拡張性、経済性、環境への配慮(エコフレンドリー)です。世界最高水準の技術を備えた燃料電池システムブランド「HTWO」を立ち上げ、グローバルビジネスの拡大と水素エコシステムの構築に貢献しています。また、燃料電池システムの出力と耐久性を大幅に向上させる技術革新により、競争力の維持にも努

めています。現在、水素エネルギーの多くは、化石燃料から製造されたグレーの水素ですが、将来的に真のカーボンニュートラルを実現するためには、再生可能エネルギーを利用したグリーン水素への移行が重要であり、ヒョンデはグリーン水素の製造と移行を図っています。グリーン水素は、将来的にFCVの主要なエネルギー源として使用され、液化天然ガス(LNG)の代替として、工場での発電にも使用される予定です。これにより、水素ビジョンとカーボンニュートラルの目標との相乗効果を最大化することが可能になります。

## 炭素削減のための社会活動

ヒョンデでは2012年より製造工程における二酸化炭素回収・貯留(CCUS)の技術開発を開始し、自動車製造以外の産業においても実用化に向け韓国の研究所で実証実験を行っており、市場のモニタリングと技術開発を一貫して進めています。また、EVの廃バッテリーを再利用するエネルギー貯蔵システム(ESS)に加えて、主要な自動車部品に産

業廃棄物のリサイクル材(PIR)を使用し、廃車のリサイクル可能性を考慮した設計を推進。そのほか、新しいサステナビリティプロジェクト「Re:Style」の立ち上げ、植林を行う「IONIQ Forest」プロジェクト、グローバルの生態系回復を目指す「Hyundai Green Zone」プロジェクトなど多面的な活動を行っています。



## 会社概要

社名	Hyundai Mobility Japan 株式会社
創立年月日	2000年1月7日
資本金	1億円
事業内容	自動車輸入販売
所在地	〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-6-1 みなとみらいセンタービル16F

【報道関係の皆様からのお問い合わせ先】

Hyundai Mobility Japan PR事務局(株式会社アンティル): [hyundai\\_pr@vectorinc.co.jp](mailto:hyundai_pr@vectorinc.co.jp)

Hyundai Mobility Japan 株式会社: [press\\_japan@hyundai.com](mailto:press_japan@hyundai.com)